

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970300448		
法人名	株式会社メデケジャパン		
事業所名	栃木グループホームそよ風		
所在地	栃木県栃木市沼和田町10番10号		
自己評価作成日	平成22年9月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

栃木グループホームそよ風では、食事作りや洗濯、買物、花壇の世話など、昔とった杵柄、まだまだ出来る自分の力を活かしながら穏やかに、誇りを持って暮していけるお住まいです。
建物は栃木駅南口の住宅街、芝生公園の脇に立地し日当たり良好、環境抜群です。
職員は「お住まいの方の人権尊重」を第一に考え、「楽しい」、「嬉しい」、「ほっとする」そんなあたりまえの感情を持てる瞬間を大切に考え、安全に、生きいきと生活できるよう、見守り、支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームはJRと私鉄栃木駅南口近くの閑静な住宅街にあり、近くに大型スーパーもあり買い物等に便利な環境である。敷地内には、同法人の高齢者専用賃貸住宅、デイサービス、ショートステイ等のケアセンターが隣接している。ホームでは、入居者の人権尊重を基本方針として、「楽しい・嬉しい・ほっとする」そんなあたり前に思える瞬間を大切に考え、安全に生き生きと生活出来るよう、見守りや一人ひとりの入居者の残っている機能を活かしながら、歩行や排泄等の自立支援を目指した支援をしている。家族会も年2回開催しており、家族間の連携も深まってきている。運営推進会議にも複数の家族が参加しており、意見を出してもらっている。市もホーム側への理解があり、管理者は市主催の研修会の講師を委託される等、協力体制を築いている。近隣に芝生公園があり、近隣の住民との交流の場にもなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本に地域の中で自分の能力を活かしなが誇りを持って生活できるホームを目指した独自の理念を作り上げている。 朝礼時の理念の唱和をはじめ、ミーティングやカンファレンス時にも必ず理念に触れるようにしており具体的ケアの統一実践に努めている。	法人理念の「人格尊重」を基本に、「嬉しい・楽しい・ほっとする」の感情を持てる瞬間を大切にす支援を目的とした独自理念をつくりあげている。職員は朝礼時に理念を唱和している他、ミーティングやカンファレンス時にも話し合い、理念に向けた具体的ケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民の一員として自治会に加入しており、地域で開催されるお祭りにも参加している。近隣の保育園児と年4回の交流を図ったり、地域ボランティアのお花の講師による生け花教室を開催している他、ホームのイベント開催の案内を地域住民へ配布するなど、地域との交流に努めている。	自治会に加入しており、地域行事への参加や近隣の保育園児との交流も行われている他、ボランティアによる活け花の指導や童謡を歌う会等の交流も行われている。ホームで開催するイベントの案内を地域住民に配布する等、地域との交流に努めている。	管理者は他の地域で認知症サポーター研修等の講師を行っている事から、自治会等とも相談の上で地域での認知症サポーターの講義やイベントの企画等をする事により、認知症への理解が深まり、更に地域との交流が深められるよう検討を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は地域研修会の講師を務めたり、センター職員は認知症サポーター研修の講師を受託する等、認知症の理解に向けた取り組みを実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防火体制、緊急対応、ターミナルケア受入等、推進会議を通して活発な意見をもらっている。	運営推進会議は入居者、入居者家族、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加により、2か月毎に開催している。会議では、運営状況の報告やホームでの課題等の報告を行う他、防火管理体制やターミナルケアの受け入れ等の意見交換をしており、出された意見や提案はサービス向上に活かしている。	議題によっては、運営推進会議に警察署員や消防団員等を加える等、参加メンバーが変わることにより、会議の内容や出される意見も変わると思われる事から、会議内容や参加メンバーの検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員でもある地域包括支援センター職員に推進会議に参加頂いている他、管理者、計画作成担当者は、市担当職員と運営上の相談や連絡を密にとっており、ホームの現状や課題等の共有化に努め、連携を図っている。	運営推進会議には市職員である地域包括支援センター職員の参加がある他、市担当職員とも日頃から連絡を密にとり、ホームの現状を把握してもらい入居者への関わり方等のアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が入居者の人権尊重を第一に考え、日常ケアの充実を図り拘束をしない介護を実践している。	代表者及び全職員が入居者の人権尊重を第一に考えており、玄関の施錠の他、ベットの4点拘束をしない(壁にベットをつけない)等、身体拘束にあたる行為を協議し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、県市町村、民間団体で主催する研修会に参加し全職員へ周知徹底している。市担当職員を招いて全職員向けの研修会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外部研修参加の機会を確保し必要に応じた支援体制の整備に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当初の契約に限らず制度改正に伴う報酬加算、料金改定の説明を分かりやすく明示し納得、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の定期的な家族会の実施や推進会議にも複数の家族、入居者に参加頂き、意見の表せる機会を設けている。	年2回の家族会の開催や運営推進会議にも家族や入居者の参加があり、意見等の表せる機会を設けているが、お世話になっているという点から、意見や苦情等が出にくいという現状がある。	入居者及び家族が率直に意見や要望等を表せるものとして、無記名のアンケート等の実施に向けた取組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター会議に本部役員が出席する機会もあり、職員の意見や提案についての意見交換がされている。	管理者は毎朝礼時に顔を出し、職員から運営に関する意見や提案を聞く機会を設けている。センター会議を毎月実施しており、職員から備品の修理等の意見や提案があり、それらを反映し改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場第一主義を念頭に置き職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部教育研修委員会主催による階層職種別研修会が毎月実施されており職員のスキルアップにつながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会主催の研修に参加することで、他事業所間との交流の機会が確保され、情報の共有が図れている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には見学も含めホームへ何度か来所してもらい、他の入居者、職員、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人の心理的不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には見学も含め家族との話し合いの時間を確保し家族の訴えに耳を傾け家族と共に支援していく姿勢で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の困っていることを本人、家族の言葉から導き出し、専門的知識を持って丁寧な初期対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者と共に暮らす同士として、入居者のこだわり苦しみ、不安、喜び、楽しみ等の思いを共感し理解することで支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や変化など本人の情報は家族と共有し、家族と本人の継続的な関係が保てるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日の散歩、近くに住む友人宅への訪問、公共施設の利用等を通して本人の生活歴に関わる場面の支援に努めている。	散歩や図書館・運動公園等の利用を通して、本人が大切にしてきた馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援に努めている。馴染みの人との関係は、入居当初は行き来があっても、現状はお互いの身体機能の低下等から難しくなってきた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が生活の中で役割を分担し自然と助け合った生活ができている。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの違いの尊重、本人の意向や希望を言葉だけではなく感じとれる感性をみがき、一人ひとりの生き方に丁寧に関わっている。	職員が、食事やお茶を一緒にとりながら、意向や希望を言葉で表せない方に対しても感じとり、関わられるよう努めている。長い間の関わりで慣れ合いにならない様、親身に思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の生活背景の聞き取りにより、一人ひとりの状態の把握に努め、不十分なところは、家族、関係機関より確認を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	部分的な問題や断片的な情報に捉われるのではなく、暮らしの中でできる力、分かる力の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時・更新時・入退院時等、本人、家族、関係機関、主治医との話し合いを持ち、意見を反映した介護計画を作成している。	本人、家族、担当職員とケアマネジャーとの話し合いや主治医の意見等も参考にした介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングは毎月行い、介護計画の見直しは、3か月・6か月の期間を目安に行っている。入居者の状態に変化がみられた場合には、現状に即した介護計画を随時作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しは、3ヶ月、6ヶ月の期間を目安として、又その他必要に応じて随時行っている。毎月のカンファレンス、モニタリングにより見えてきた課題については、計画見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	部分としてのサービスにならぬよう、変化に応じて必要となる支援を柔軟に検討している。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域民生委員、ボランティア、消防、文化・教育機関等、地域の方や場の力を借りて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が生活の中で役割を分担し自然と助け合った生活ができています。主治医としての医療機関での受診が継続しており関係維持ができています。	受診は本人及び家族等の希望を大切にしており、かかりつけ医や協力医での受診により適切な医療を受けられるように支援している。かかりつけ医への受診は、基本的には家族の付添いで行っているが、家族が同行出来ない時には受診後に書面で家族等に診察結果等を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在3名の看護職員がおり適切な健康管理や医療活用ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、医師、看護師、ソーシャルワーカー間での連携が図れており、指示指導を受けたり、相談の出来る関係ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化に伴い、家族、主治医との話し合いの機会を増やし情報の共有に努めている。	重度化した場合や終末期の在り方については、家族や主治医と話し合いながら方針を共有している。職員に看護師がいることから、重度化した場合の支援体制は出来ている。訪問看護ステーションとの契約や医師の24時間医療体制は無く、緊急時は救急車対応としている。家族は最期迄ホームでと希望する方が多い。	今後、協力医や主治医、訪問看護ステーションとの連携や話し合いを行い、その時々入居者及び家族の意向を確認しながら、ホームとして対応しうる最大の支援方法や方針の共有の検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの整備や研修により、実践力を身につける取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施、推進会議を通して地域との協力体制の働きがけを行っている。	防火訓練は消防署員の立会により年2回実施している。夜間時等、地域住民からの協力の必要性を感じており、合同での訓練も検討しているが日時等の兼ね合いから実現には至っていない。水や食料等の備蓄は法人として行っている。	ホームでの防火訓練時に地域住民にも参加してもらえるよう自治会等に依頼や開催日時等を工夫し、今後、有事の際に連携できる体制づくりに期待したい。また、備蓄の内容や管理についても検討を期待したい。

栃木グループホームそよ風

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権侵害をしないこと、入居者一人ひとりの違いを尊重し、さりげない心のこもった言葉かけや対応を心がけている。個人情報の取り扱いについても、保護管理規程に準じ研修を通し周知徹底している。	職員は入居者一人ひとりを尊重し、さりげない心づかいや言葉かけ、笑顔で対応する等の配慮に努めている。個人情報に記載された書類に関しては事務所の書庫に保管し、適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が感情表現できるよう、指示や強制ではなく伺う姿勢で、自己決定できるよう余裕のある言葉かけや、雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるものの、入居者が主体となって一人ひとりのペースに沿って見守りながら一緒に生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合った髪型や服装ができるよう支援している、家族の協力もありカットは美容師さんに来てもらったり、馴染みの美容院へ出かけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳、片付け等、役割分担しながら、一緒に準備や片付けを行っている。	入居者は盛り付けや配膳、後片づけ等の出来ることを役割分担しながら職員と一緒にやっている。職員の一人は入居者と同じ食事を一緒に摂っており、他の職員は声かけや介助を行いながら和やかな雰囲気食事をしている。昼食のみ、併設するデイサービスで調理されたものが提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリーは栄養士が管理し食事量、水分量は個別に記録し適切な摂取量が確保できるよう配慮している。個人の既往症や現病歴を把握し状態に応じ個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施、歯の痛みや義歯の不都合が生じた場合は、随時歯科医院受診を行っている。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録により排泄パターンを把握し個人のリズムに合わせた声かけ、トイレ誘導を行っている。	入居者各々の排泄パターンに合わせた声かけや誘導によりトイレ介助をしている。夜間時も声かけや誘導を行い、ポータブルトイレやパット使用で対処している。現在、おむつ使用の入居者は1名であり、ホームとして排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に牛乳や繊維質の食物を摂ったり全員で体操をするなど、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や身体状況を確認し、一人ひとりの希望やタイミングを尊重した上で基本的には毎日入浴している。	入居者一人ひとりの希望や状態によるが、ほぼ毎日、午後の時間帯で入浴している。浴槽は2つあり、2人ずつ、2名の職員の見守りや介助により入浴しているが、身体機能の低下により、2名介助で入浴する場合もあり、今後の課題となっている。沐浴剤等を使用して入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣、活動や出来事等も検討し、個別の状況に応じた生活リズムの安定に努め、必要な休息や睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の処方内容を把握し、主治医の指導のもと、服薬管理を行っている。処方箋はファイルに整理し、いつでも確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	規則に縛られるのではなく、持っている力を活かすことで自身を取り戻し楽しめる暮らしができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を考慮し、その時々に応じて一人ひとりが外出を楽しめるよう、ドライブや公共施設、外食、馴染みの場所へ出かけている。	体調や天気に応じて近隣を散歩をしたり、買い物に出掛けている他、その日の希望に添って戸外に出かけられるよう支援している。希望によって少人数でドライブに出掛けたり、外でお茶を飲んだり、外食にも出掛けている。	

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の力量に応じ通常は事業所預かりとし、買物等必要な場合は、本人が行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも事業所の電話は使用可能であり、家族や友人と手紙や葉書のやりとりをしている入居者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が多くの時間を過ごす共有空間は採光に配慮し季節感のある飾り付けを心がけ違和感や威圧感を感じさせない自然な雰囲気作りに取り組んでいる。	共用の空間は明るく、温度調節も適温に配慮されている。季節を感じられるような飾りつけや季節の花等が置かれており、居心地よく過ごせるよう工夫され、各々がソファ等で寛ぐ姿が見られた。ユニットで1階と2階に分れており、それぞれに視界は異なるが、窓からは行き交う通行人の姿や花壇等、周辺風景が見えて楽しめるものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	内外部の共有スペースにベンチを置くなど、ひとりになれる居場所作りを工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の物や馴染みの物は自由に持ち込めるようになっている。カーテンも好みの柄で居心地よく暮せる居室の配慮をしている。	居室には思い出の物や馴染みの物が自由に持込まれ、布団やカーテン等も好みの使い慣れたものが利用されており、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリー、随所に手すりを設置。床材は滑りにくいものを使用し、居室やトイレの表示は分かりやすく工夫をしている。混乱や失敗を招かぬよう原因の排除や環境整備により自立した生活が送れるよう工夫している。		